

# 北九州市物流拠点構想

令和4年3月

北九州市



## はじめに

アジアに近く、本州と九州の結節点に位置するという地理的特性を有している北九州市は、古くから交通の要衝としての役割を果たしてきました。

明治 22(1889)年、門司港が国の特別輸出港に指定され、明治 24(1891)年には九州鉄道の起点として門司駅(現・門司港駅)が開業し、北九州市の陸海の物流拠点としての発展が始まりました。

本市のものづくりの歴史は、筑豊からの石炭と中国からの鉄鉱石の原料調達に優れた地理性、また地震等の災害が少ないことから、官営八幡製鐵所の立地が決定したことに始まりました。

以来、本市は 100 年以上にわたり、我が国の「ものづくり」を支える街として発展してきました。現在も、鉄鋼、化学、自動車、半導体関連の製造業をはじめ、環境、エネルギー関連企業など幅広い産業が集積しています。その「ものづくり」を支えてきたのが『物流』です。

物流は、市民生活や産業を支え、地方創生を推進する重要な社会インフラであり、人口減少や新型コロナウイルス感染症の流行など社会環境の大きな変化の中にあっても、本市産業の持続的な成長と安定的な市民生活を維持するため、その機能を十分に発揮させていく必要があります。

近年、E コマース市場の急拡大や人材不足に直面する物流業界においては、デジタル化やロボット化等による作業効率化に加え、BCP(事業継続計画)や脱炭素の観点から輸送手段の最適化(モーダルシフト)や物流拠点の再配置等の動きが加速しています。

本市は、道路(九州自動車道・東九州自動車道・北九州都市高速道路・都市計画道路等)、国際拠点港湾である北九州港、24 時間利用可能な北九州空港、鉄道(九州と本州を結ぶ全ての貨物列車が停車するターミナル駅)など、物流を支えるインフラが整っています。さらに、北九州空港の滑走路延長に向けた国の調査や多様な物流拠点を結びつける重要な道路である下関北九州道路の国の調査も進むなど、本市の物流拠点としてのポテンシャルが更に高まっています。

そこで、物流を本市の主要な産業としてさらに発展させるため、「物流拠点構想」を策定しました。

本市は、社会経済状況の変化に柔軟に対応し、また、多くの関係の皆様のご理解とご協力を賜りながら、本構想に掲げる施策を着実に進め、物流拠点としての国際競争力の強化と地域経済の活性化を図ってまいります。

令和4年3月

# 北九州市物流拠点構想 目次

## はじめに

<b>第1章 物流拠点構想の策定について</b>	<b>・・・ 1ページ</b>
1 物流拠点構想策定の経緯	・・・ 1ページ
2 主要関連プロジェクトと 物流拠点構想との関係性	・・・ 2ページ
<b>第2章 物流を取り巻く現状について</b>	<b>・・・ 6ページ</b>
1 全国的な物流を取り巻く現状	・・・ 6ページ
2 本市の物流の現状	・・・ 18ページ
3 本市のポテンシャル	・・・ 25ページ
<b>第3章 ヒアリング調査等の結果について</b>	<b>・・・ 29ページ</b>
1 ヒアリング調査の結果	・・・ 29ページ
2 アンケート調査の結果	・・・ 31ページ
<b>第4章 本市物流の課題の整理と方向性について</b>	<b>・・・ 35ページ</b>
1 本市物流の課題の整理	・・・ 35ページ
2 課題を解決するための施策の方向性	・・・ 36ページ
<b>第5章 物流拠点構想における施策について</b>	<b>・・・ 38ページ</b>
<b>第6章 物流リーディングプロジェクトについて</b>	<b>・・・ 48ページ</b>
1 物流リーディングプロジェクトの5項目	・・・ 48ページ
2 物流施設の集積用地の確保に向けた取組み	・・・ 59ページ
3 物流リーディングプロジェクト図	・・・ 59ページ
<b>第7章 まとめ・本市の目指す姿について</b>	<b>・・・ 62ページ</b>
1 本市の目指す姿	・・・ 62ページ
2 構想の推進により生じる効果	・・・ 63ページ